

8

Rd.

OCT 2011

平成23年12月25日発行
第2巻33号

RACING PRESS

apan

2011 AUTOBACS SUPER GT
ROUND8 MOTEGI 250Km RACE



2011 SUPER GT



Round 8 AUTOPOLIS 10/15-16

Text
島村元子

Photo
鉄谷康博
加藤智充

Editor
吉川絹恵

中村佳史
近江 勤

2011シリーズチャンピオンが決定!

GT500

500クラスの王者はS Road MOLA GT-R!



Champion 2011

GT500の王者に輝いたのは今季GT500にステップアップしたばかりのNo.46 S Road MOLA GT-R。好調ミシュランタイヤを強い味方にし、最速・最強の称号を手にする事となった。チームは前年度のGT300クラスチャンピオン。このときは柳田がエースとしてチームを牽引。GT500でのキャリアを活かし、強いチームを作ってきた。いわばGT500への返り咲きとなった今季、早くも結果を残す事になり、チームはモチロン、自身としても念願だったシリーズチャンピオンを手にしたことになる。

GT300

谷口信輝、悲願のチャンピオン!



一方、GT300クラスチャンピオンもニューカマーだ。No.4 初音ミク グッドスマイル BMWはいわゆる「痛車」カラーに身をまとったクルマだが、エースドライバーの谷口信輝が王座獲得のためのレースにこだわり、厳しい戦いへと果敢に挑んできた。優勝経験こそ豊富な谷口が、やっとの思いでつかんだ悲願のタイトルとなった。

GT500

10月15-16日、栃木・ツインリンクもてぎでSUPER GTの今季最終戦が開催され、予選の雨、決勝直前に天候が激変してドライへと好転するという天候に翻弄された戦となった。
 GT500ではポイントで大きくライバルをリードするNo.46 S Road MOLA GT-R(柳田真孝/R・クインタレリ組)が堂々のポールポジション獲得に成功。タイトル奪取に王手をかけて決勝に挑んだ。そこに立ち上がったのが、No.23 MOTUL AUTECH GT-R(本山哲/B・トレルイエ組)。予選5番手からあつという間にトップを奪取、試合巧者のふたりのベテランが逆転王者を手にするにはこの戦いで勝利することが必須条件だけに、その気迫は実に圧巻だった。結果、46号車が2位に入り初の王座をつかんだが、23号車は最多の3勝目をあげた。

[GT500 決勝結果]

優勝	23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲/ブノワ・トレルイエ
2位	46	S Road MOLA GT-R	柳田真孝/ロニー・クインタレリ
3位	39	DENSO SARD SC430	西浦宏明/井口卓人



MOLA AUTECH GT-Rベテランコンビが最多の3勝!



2nd

GT300

GT300は上位2台がガチ勝負。No.4 初音ミク グッドスマイル BMW(谷口信輝/番場琢)がダントツの速さで圧勝。ポイントでの逆転を果たし、念願の王座を手に入れている。



初音ミクBMWがダントツの速さで圧勝!

[GT300 決勝結果]

優勝	4	初音ミク・グッドスマイルBMW	谷口信輝/番場琢
2位	33	HANKOOK PORSCHE	影山正美/藤井誠暢
3位	10	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP	田中哲也/平中克幸



THE FACE CLOSE-UP

Joao Paule de
OLIVEIRA
ジョアオ・パオロ・オリベイラ

Text by M.Shimamura

Photo: Y.Tetsutani

ビッグファイターはブラジリアン ホシノイズムを現在継承中!

JPの愛称でおなじみのドライバー。正しくはジョアオ・パオロ・デ・オリベイラという。早いもので、来日から今年8年目のシーズンを迎えている。ブラジル生まれのJPは、16歳でカートデビューを果たすと、早くも翌年にはフォーミュラレースへと転身。しかもいきなり南米F3選手権へとステップアップし、クラスチャンピオンまでかっさらってしまう勢いを見せた。

南米でのレース活動に見切りをつけたJPが新たに選んだのは、ヨーロッパ。もともと英語が得意だったという彼は躊躇することなく欧州へと渡り、まずドイツF3選手権の参戦を始めた。だが、ここでの道のりは決して平坦なものではなかった。何しろヨーロッパはヨーロッパなりのモータースポーツ文化が存在する。つまり、南米からきたブラジリアンは「よそ者」だ。さらに、彼の暴れん坊的なドライビングスタイルも目立つ材料だった。誰も手に負えないほどの強さと背中合わせだったのは、スタートでの大失速や、競った場面でのラフな走りとして表面化し、「ここ一番」での勝負強さを見せることがなかなかできずにいた。

だが、JPは粘りに粘った。念願叶い、2003年にはドイツF3でのチャンピオンを獲得。現地で生まれたネットワークを活かし、今度は日本へと新天地を見つけた。そしてついに2004年、全日本F3選手権にデビュー。2年目の2005年にシリーズチャンピオンをつかみとった。さあいよいよフォーミュラ

・ニッポンへとステップアップ! と夢見たJPだが、残念ながら日本でもフォーミュラ最高峰への道は険しく、2007年のデビューまで茨の道をしばしば歩むことになる。

この間、彼はSUPER GTへとひと足早くデビューを果たし、着実に自分の持ち前を發揮し続けてきた。タイヤマネージメントのウマさ、果敢な駆け引きができる試合巧者ぶりを遺憾なくアピールし続け、KONDO RACING在籍中は毎年必ず1勝をマークし続けた。そして今年、現役時代、「日本一速い男」といわれた名将星野一義監督が率いるTEAM IMPULへと移籍。闘魂あふれるチームスピリッツを受け継ぎながら、S-GTでのシリーズチャンピオン獲得を目標に、ますます強さと速さに磨きをかけている。

【ドライバープロフィール】

1981年7月13日、ブラジル出身。カートを経て1998年からフォーミュラレースに転身。南米、ドイツ、日本など、世界各国のフォーミュラ3レースに参戦し、腕を磨いた。2005年に全日本F3へとデビュー。ポールポジションを獲得しながらも、スタートで失速、というミスが当初目立ったが、今や強さと速さを兼ね備える実力派ドライバーへと成長した。2010年は念願のフォーミュラ・ニッポンでシリーズチャンピオンを獲得。SUPER GTでは、星野一義監督のラブコールを得、2011年にTEAM IMPULへと移籍。シリ-

